

2017年度 「経団連推薦社内報審査」 作品募集のご案内

経団連事業サービス社内広報センターは、2017年度も優秀社内報の推薦・表彰を実施いたします。この推薦・表彰制度は、経営に真に役立つ社内広報活動の推進とともに、編集者の日ごろの活動を評価・奨励することによって、社内報のレベルアップを図ることを目的に1966年に創設し、毎年多くのご応募をいただいております。

本年度は、雑誌・新聞型社内報、イントラネット（Web、スマートフォン活用など）社内報、映像社内報の3部門にて各社内報を総合的に審査します。さらに昨年度に続き、特定テーマ部門として今日の重要課題である①ダイバーシティ（女性活躍推進、多文化共生、障がい者活躍推進、LGBT対応推進など）、②働き方改革（ワークライフバランス、作業効率化推進、タイムマネジメントなど）の2テーマを対象に、全4部門で作品を募集します。

応募いただきました作品は、各社内報が会社の経営環境や状況を的確に反映した発行目的・編集方針をもち、それをどれだけ実現しているかについて、審査員が審査基準に則って多角的に審査し、作品ごとに講評をフィードバックいたします。また、審査結果の優秀な作品の中から優秀賞、総合賞、特別賞、企画賞などを選定し、経団連会長名にて表彰いたします。

情報通信技術が発達し、働き方にもさまざまな改革が求められるなど経営環境が大きく変わろうとしているなか、従業員の意識や価値観も多様化し、社内・グループ内コミュニケーションの重要性は一段と増しています。企業・団体における社内広報活動の充実のために、ぜひともこの審査をご活用ください。

多数のご応募をお待ち申し上げます。

ご応募・お問い合わせなどは下記までお願いいたします

一般社団法人 経団連事業サービス 社内広報センター

<http://www.keidanren-jigyoservice.or.jp>

〒100-8187 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

E-MAIL: syanaikoho@keidanren-jigyoservice.or.jp

TEL. 03-6741-0048 FAX. 03-6741-0051

応募要領

すべての部門審査に共通する事項

審査対象：日本国内において企業、事業所、団体などが発行する社内報が対象です。

対象期間：発行・配信・放映が2016年10月～2017年9月の作品を対象とします。

対象言語：日本国内において企業、事業所、団体などが発行・発信・配信・放映している社内報が対象です。
英語併記や多言語対応の社内報については、グローバル化やダイバーシティへの対応姿勢については評価をいたしますが、日本語以外の文章、内容については審査、講評の対象外となります。
※各部門の審査についての詳細情報は右ページをご覧ください。

応募方法

- ・経団連事業サービスのホームページ（社内広報センターの経団連推薦社内報審査）に、各部門の審査申込書のPDFデータを用意しております。ダウンロードしてご記入の上、応募作品とともにご郵送ください。
 - ・作品をご郵送いただく際は、封書の表に必ず「経団連推薦社内報〇〇〇部門審査申込書・作品在中」と朱書きをお願いいたします。
 - ・審査申込書をデータ入力されたい方は社内広報センター（syanaikoho@keidanren-jigyoservice.or.jp）宛にメールでご連絡ください。Wordファイルを添付して返信いたします。Wordファイルに必要事項をご入力いただいた審査申込書は、社内広報センター（上記メールアドレス）宛にメールの添付ファイルでお送りいただくとともに、印刷した申込用紙を応募作品に同封し、封書の表に応募部門を朱書きの上、ご郵送ください。
 - ・イントラネット部門でログインIDをお知らせいただく場合も、申込用紙は必ずご郵送ください。
 - ・複数部門に同一の社内報に応募される場合は、部門ごとのお申し込み、作品のご郵送をお願いいたします。
- ※応募作品は原則として返却いたしません。社内報掲載の機密情報・個人情報につきましては、当法人の個人情報保護規程に基づき、安全かつ適正に管理いたします。

応募締切

2017年9月29日（金）必着

応募費用

- *雑誌・新聞型社内報、イントラネット社内報、映像社内報の各部門については1作品につき
 - 一般 48,600円（45,000円＋消費税3,600円）
 - 社内広報センター会員 32,400円（30,000円＋消費税2,400円）
- *特定テーマ部門については1作品につき
 - 一般でこの部門のみの応募企業 21,600円（20,000円＋消費税1,600円）
 - 社内広報センター会員および、上記審査のいずれかの部門に応募された企業 16,200円（15,000円＋消費税1,200円）

審査結果

- ・審査結果および審査委員の講評コメント等は2018年2月下旬までに書面でご送付いたします。
 - ・審査結果の優秀な作品の中から優秀賞、総合賞、特別賞、企画賞（特定テーマ部門）を選定します。
- ※入賞作品については、表紙やトップページ、映像の画面キャプチャーなどを報告書に掲載させていただきます。また、雑誌・新聞型社内報部門の入賞作品につきましては、社内広報センターの社内報閲覧室、全国社内広報大会、一部のセミナーの閲覧コーナーにて展示させていただきます。

各部門審査に関する事項

| | 対象 | 応募に必要なもの |
|--|---|--|
| 1 雑誌・新聞型 社内報部門 | 日本国内において企業、事業所、団体などが発行する紙の雑誌・新聞型の社内報が対象です。 | 必要事項を記入した審査申込書と、対象期間内に発行された雑誌・新聞型で同名称の社内報2号分をご送付ください（同じものを4冊ずつ。連続する2号でなくても構いません）。 異なる名称の社内報は別にご応募ください。 |
| 2 イントラネット (Web、スマートフォン活用など) 社内報部門 | 日本語を基本とするイントラネット(Web、SNS活用など)型社内報で、パソコンやスマートフォン、タブレットなどの情報機器を通じて社内広報として従業員等に情報提供されるコンテンツが対象です。社内電話帳やマニュアル集などの業務用ツール類については審査、講評の対象外となります。 | 必要事項を記入した審査申込書と、対象期間内に発信・掲載された作品を以下のいずれかの方法でご応募ください。 [1] 実サイトへのログインIDを発行する [2] サイトデータをDVD等にコピーする [3] サイト画面のキャプチャーをDVD等に収録する * [2] [3]のDVD等は同じものを3枚ご送付ください。 * 各応募方法の詳細は下の※1、※2をご覧ください。 |
| 3 映像社内報 部門 | 映像社内報として、映像機器、PC、スマートフォン、デジタルサイネージなどを利用して社内広報活動の一環として継続的に社内に放送しているものを対象とします。イントラネット内で公開しているものを含みますが、映像作品の審査はイントラネット部門とは別にご応募ください。 | 必要事項を記入した審査申込書と、対象期間内に放映された作品をDVDでご送付ください（同じものを3枚）。別テーマで2作品まで応募できます。 |
| 4 特定テーマ 部門 | ①ダイバーシティ（女性活躍推進、多文化共生、障がい者活躍推進、LGBT対応推進など）、②働き方改革（ワークライフバランス、業務効率向上、タイムマネジメントなど）のいずれかを取り上げた社内報の特集、企画を対象とします（単独号での企画の場合は原則4ページ以上のもので、連載企画の場合は連続2号分）。他部門の応募と同じ号の特集・企画をご応募いただいても結構です。複数号にわたる連載企画については、合わせて1つの作品として審査します。 | 必要事項を記入した審査申込書と、対象期間内に発行・掲載された社内報の、該当特集・企画がわかるように、付箋を付けるなど該当ページを指定してご応募ください（同じものを4部ずつ）。 |

※1イントラネット部門での作品応募方法

- [1] 実サイトへのログインIDを発行する→セキュリティ上問題がなければ、最も審査がしやすい方法です。
- [2] サイトデータをDVD等にコピーする→DVD等にコピーしたのち、正しく表示されるかを確認してください。初めに開くファイルを指定し、ネットワークを切り離れたPCでも正しく表示されることを確認してください。社外秘の部分は、部分的に消していただいてもかまいません。
- [3] サイト画面のキャプチャーをDVD等に収録する→通常が表示画面通りに見えるようにサイトの画面をキャプチャーし、PDFかJPEGといった、一般的なPCで開ける画像形式でお送りください。社外秘の部分は、部分的に消していただいてもかまいません。

※2イントラネット部門の応募データについて

ご提出いただいた情報については、厳正に管理いたしますが、サイトすべての情報をデータでお送りいただくのが困難な場合は、内容を選択して、データをコピー、あるいは画面をキャプチャーしてお送りください。

イントラネット部門の審査では、できるだけサイトの全体像を評価したいと考えています。サイトの全体像がわかるページとともに、裏面の審査基準に合った内容が確認できるようなページを選んでお送りください。特に以下の内容のページは、収められていることが望ましいです。

- ・トップページ：サイト全体の基本デザイン、情報構造、各コンテンツへの経路を評価。
- ・ニュース記事の一覧：トップページ以外にニュース記事の一覧ページがある場合。記事の頻度と記事タイトルのわかりやすさなどを評価。
- ・ニュース記事の例：日常的な情報発信の質・量、レイアウト、写真の使い方などを評価。
- ・特集記事・スペシャルコンテンツ、社員登壇型記事や双方向型企画など、特徴的な記事・コーナー、機能も総合的に評価します。

部門別審査基準

| | | | | |
|---------------------------------------|--|--|-----------|-------|
| 雑誌・新聞型社内報部門 | 第1部門 [総合評価] | 発行目的・編集方針が会社の経営環境や状況を的確に反映し、社内報がそれを実現した内容になっている | 250点 | |
| | 第2部門 [企画・内容] | 企画のねらいが明確で、展開が多面的で説得力を持っている | 100点 | 計350点 |
| | | 内容が分かりやすく、読者に考えさせて行動をうながす誌・紙面になっている | 100点 | |
| | | 発行頻度にふさわしい特集や連載・定例企画が充実している | 50点 | |
| | | 読者や編集方針に合わせて経営者、管理職、一般社員が適切に登場している | 50点 | |
| | | 表紙の使い方にオリジナリティがある（明確な意図を持ち、主張がある） | 50点 | |
| | 第3部門 [文章表現] | 文章・用語の使い方が適切で、誤字・脱字などがない | 100点 | 計200点 |
| | | 見出しやリード文が適切で効果的である | 100点 | |
| | 第4部門 [レイアウト] | 見出し、本文、写真、イラスト、図表などがバランス良く配置され、読みやすいレイアウトになっている | 100点 | 計200点 |
| | | 内容に対して写真、イラスト、図表およびカラー、モノクロ、二色を効果的に活用している | 50点 | |
| あらゆる人にとって読みやすく、伝わりやすい文字や線、色の使い方がされている | | 50点 | | |
| 総 計 | | 1000点満点 | | |
| イントラネット社内報部門 | 第1部門 [総合評価] | 発信目的・編集方針が会社の経営環境や状況を的確に反映し、社内報がそれを実現した内容になっている | 250点 | |
| | 第2部門 [企画・内容] | 速報性のある、新しい情報を常にタイムリーに発信している | 100点 | 計300点 |
| | | 読者や視聴環境・ツールの特性に合った情報が適切な内容・ボリュームで提供されている。 | 100点 | |
| | | 読者や編集方針に合わせて経営者、管理職、一般社員が適切に登場している | 50点 | |
| | | 視聴者にアクセスをうながす工夫がされている。 | 50点 | |
| | 第3部門 [サイト構造・表現・レイアウト] | 必要な情報を得やすいサイト構造になっている | 100点 | 計300点 |
| | | 視聴しやすく、理解しやすい表現・レイアウトになっている | 100点 | |
| | | 効果的な見出し、リードが使われ、文章表現が適切である | 50点 | |
| | 第4部門 [Web特性活用] | 見出し、文字量、写真、イラストなどのバランスがとれたコンテンツが掲載されている | 50点 | 計150点 |
| | | イントラネット、Webの持つ特性を効果的に活用している | 100点 | |
| | あらゆる人の視聴を想定して、アクセシビリティに配慮した構成、内容になっている | 50点 | | |
| 総 計 | | 1000点満点 | | |
| 映像社内報部門 | [総合評価] | 制作方針や目的が会社の経営環境や状況を的確に反映しており、社内報がそれを実現した内容になっている | 200点 | |
| | [個別評価] | ①内容がわかりやすく、視聴者が理解しやすい工夫がされている | 100点 | 計800点 |
| | | ②視聴者に問題意識を持たせたり行動を起こさせたりする内容である | 100点 | |
| | | ③映像全体の構成が優れている | 100点 | |
| | | ④放送時間や頻度に適した構成・内容である | 100点 | |
| | | ⑤視聴者に合った切り口で、多角的に取材されている | 100点 | |
| | | ⑥視聴者や制作方針に合わせて経営者、管理職、一般従業員が適切に登場している | 100点 | |
| | | ⑦映像、ナレーション、音声の使い方、編集が適切かつ効果的である | 100点 | |
| | | ⑧視聴者をひきつける工夫をしている | 100点 | |
| | 総 計 | | 1000点満点 | |
| 特定テーマ部門 | 第1部門 [企画・内容] | 特集（企画）にオリジナリティがある | A・B・C・D・E | |
| | | 特集（企画）のねらいが明確でわかりやすい | A・B・C・D・E | |
| | | 特集（企画）の内容がよく掘り下げられ、展開が多面的である | A・B・C・D・E | |
| | | 特集（企画）内容に合わせて、適切に人が登場している | A・B・C・D・E | |
| | | 読者に考えさせて行動をうながす内容になっている | A・B・C・D・E | |
| | 第2部門 [文章表現] | 文章・用語の使い方が適切で、誤字、脱字などがない | A・B・C・D・E | |
| | | 見出しやリード文が効果的につくられている | A・B・C・D・E | |
| 第3部門 [レイアウト] | 特集（企画）内容にふさわしいレイアウト、効果的な扉になっている | A・B・C・D・E | | |
| | 見出し、本文、写真、イラスト、図表などのバランスが良く、読みやすい | A・B・C・D・E | | |
| 総合評価 | | | | |